

テラヘルツテクノロジーフォーラム通信

Vol.13, No.1

巻頭言

テラヘルツテクノロジーフォーラム研究交流委員会 委員長 谷正彦

昨年はフォーラムにとって大変悲しいできごとがありました。いうまでもなく、萩行正憲会長の急逝です（フォーラム通信 Vol.12, No.2 の巻頭ページ参照）。日本においてテラヘルツ時間領域分光やテラヘルツ波光源の研究が活発になったのは 1990 年代後半からですが、その当時から独創的な発想と、深い学術的理解に基づく研究活動で、この分野をリードされてこられました。また研究室で薫陶をうけた多くの学生や研究者が、テラヘルツ波科学を中心とする分野で活躍しています。また萩行先生から技術指導を受けたテラヘルツ波関連の企業も数多いと思います。最近では科研費の新学術領域研究「電磁メタマテリアル」の代表としてテラヘルツ帯のメタマテリアル研究に意欲的に取り組んでおられました。このようにこの分野で多大な貢献をされた萩行先生を失ったことは、フォーラムのみならず、コミュニティ全体にとって大変な損失でした。また私自身も萩行先生には負うところが大きく、残念な気持ちでいっぱいです。萩行先生が生前、心を砕いておられたフォーラムの発展とテラヘルツテクノロジー分野の発展に微力ながら努力を惜しまないことが、その恩に報いる道だと考えています。

さて、萩行会長が急逝されたあと、小宮山副会長が会長代行としてフォーラム運営の指揮をとられましたが、今年度は会長、副会長などの理事会メンバーを少なからず変更し、新体制でその運営に臨む予定です（詳細は 2015 年度総会にて報告致します）。また、今年度はフォーラムと日本学術振興会テラヘルツ波科学技術と産業開拓第 182 委員会が主催して FTT 2015 (The Second International Symposium on Frontiers in THz Technology) を 8 月 30 日から 9 月 2 日の期間、浜松で開催予定です。前回の FTT 2012 よりは少し規模を縮小して開催することになっていますが、一般投稿論文が 79 件あり、国際光年を記念した特別セッションや萩行先生の追悼セッションなどが企画されています。IRMMW-THz の開催は 3 年に 1 回、アジア・太平洋地域で開催されることになっていますが、2018 年が次のアジア・太平洋地域での開催年に当たります。現在、国内の主だった研究者とともに IRMMW-THz2018 の日本での開催誘致の活動を行っていますが、フォーラムは支援団体としてその活動をサポートする予定です。すでに日本開催の提案を IRMMW-THz の国際組織委員会 (IOC) に提出しています。今年 8 月下旬に香港で開催される IRMMW-THz 2015 の会期中に開催される IOC で審議され、可否が決定する予定です。2015 年度からの新運営体制のもと、これらのイベントと事業を成功させるため、引き続き皆様のご協力、ご支援をお願い致します。